

## 第9回 全国まちなか広場研究会 in 横浜

### 【開催概要】

研究会タイトル「横浜の広場たち。その生まれ方から使いこなしまで。」

377万人が暮らす横浜には、あらかじめ「広場」として計画され作られたものから、誰かがその場を見出し、使い始めたことで「広場的」な場となったものまで、大小様々な場があります。横浜大会ではそれらの場の実践者を交えて議論することで、横浜のような大都市（もしくはその周縁）におけるまちなか広場のあり方や生まれ方、そしてその役割を言語化し、共有しました。

基調講演は、横浜で次々と広場的空間が生まれる背景について行政の制度も踏まえてのレクチャーを実施。その後、3つのセッションに分かれて都市部、郊外部で活躍する12名の横浜のヒロバニスト（ここでは広場を育む人という意味）によるプレゼンテーション+対話を行い、広場に関わる人、もの、コトなどについて議論を深めていきました。

日時:2022年11月25日(金)13:00~17:30

会場:象の鼻テラス(神奈川県横浜市中区海岸通1-1)参加者数:現地90名(オンライン25名)

料金:一般3,000円、学生1,000円

主催:全国まちなか広場研究会

協力:象の鼻テラス、横浜のヒロバニスト一同

### 開会挨拶

全国まちなか広場研究会 会長 宮口 侗廸(早稲田大学 名誉教授)

横浜大会幹事 杉崎栄介(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

### 1. 基調講演

上野正也(神奈川大学建築学部建築学科まち再生コース准教授)

「広場からみた横浜 -ハードとソフトが重なる空間づくり-

戦前・戦後から今日に至るまで、ある意味で長い都市再生の歴史をもつ横浜。この文脈を「広場」から見つめ直します。そこでは、実空間の整備といったハードだけでなく、制度や仕組み、活動といったソフトにも着目し、それらが重なる空間(=広場)を捉えることで、横浜における広場の価値を考える動線をつくりました。

### 2. 12人の”ヒロバニスト”による対話

4名のプレゼンター+2名のコメンターを1ユニットとして、6名による議論を三部制で行いました。

### 《司会》

岩本唯史(株式会社水辺総研代表取締役、他)

船本由佳(ライフデザインラボ所長/キャスター、他)

### セッション 01

みなと大通りの道路空間活用や鉄道高架下の活用、さらには横浜の海の活用までさまざまな場の再編成や活用と都市デザインの関わりを中心に議論しました。

## 《プレゼンター》

中村 遥+千代田彩華(オンデザイン)

横浜市では「みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路の再整備」として、回遊性向上等のために車道幅を狭めて歩行者・自転車通行空間を拡充する等の既存道路空間の再整備を行っています。これに向けて行われている社会実験「みつけるみなぶん」は、あたかも道路を広場のように活用する取り組みです。これを担当する設計事務所スタッフによるプレゼンテーションを行いました。

山崎博史(一般社団法人水辺荘代表理事、他)

「横浜の広場は海」という人がいます。ただ、その海にアクセスできるポイントやアクティビティがないと誰にとっても広場とはなりません。山崎さんは、2012年に水辺を仲間と楽しむサードプレイスとして「水辺荘」を立ち上げ、SUP(Stand up paddleboard)を使ったアクティビティを開発、水辺ファンを増やすためのサービスとして展開しています。海を広場にするとはどういうことか？を現場で長年活動されてきた視点で山崎さんから発表されました。

桂 有生(横浜市 都市デザイン室 都市デザイナー)

50周年を迎えた横浜の都市デザイン。民間と行政、学識が協働して取り組んできたその成果は、現在の横浜に大きな影響を与えています。これまで数々の都市計画家が関わってきましたが、現在その最前線で働くのが桂さんです。横浜の都市デザインで形成されてきた広場的空間について、レクチャーしました。

伊藤 幹太(YADOKARI 株式会社/エリアイノベーションユニットプロデューサー)

京急線日ノ出町駅近くの高架下を活用した地域のコミュニティスポット「Tinys Yokohama Hinodecho」、横浜最古の寺・弘明寺観音前にある旧商業施設を改装した共創型コリビング「ニューヤンキーノタムロバ」、相鉄線星川駅-天王町駅の高架下開発「星天=HOSHITEN」など。まちなかの「広場」ともいえる空間づくりを企業や地元オーナーと組んで企画展開する YADOKARI 伊藤さんによるプレゼンテーションは新規性あふれるものでした。

## 《コメンテーター》

番場 俊宏(abanba 代表)

三浦 詩乃(東京大学大学院 新領域創成科学研究科 特任助教)

=====

## セッション 02

広場へ持ち出すツールのデザインから商店街、団地、まちなかなどへ染み出しハックすることでその地域に「広場的」空間や体験を提供している実践者たちが、その実態を報告しました。

## 《プレゼンター》

酒谷粹将(関東学院大学准教授／藤原酒谷設計事務所)

近年、建築設計における創造的プロセスについての研究や、住民参加ワークショップ等の対話手法を用いた協働的な建築設計の実践的研究、社会実験において制作プロセスへのユーザーの参加を促す家具・什器の設計等に取り組まれています。JR 関内駅近くにある大通り公園におけるストリートファニチャー、横浜市金沢区にある住宅街での民家改装のプロジェクトなどを実践した経験をもとに、広場で使うツールについて話しました。

森智佳子+熊谷恵美子(株式会社 スタジオ ゲンクマガイ)

横浜駅から電車とバスで 40 分程度の場所にある旭区の左近山団地。昭和 43 年から入居が始まった 4700 戸のマンモス団地は住民の高齢化、多様化が進んでいます。ここに新しくできた広場(左近山みんなのにわ)とコミュニティスペース(左近山アトリエ)が、団地に変化を起こしつつあります。森さん、熊谷さんのお二人はアトリエの運営者。ここは、老若男女様々な人が集まれる居場所となっています。軒先から地先への関わりもユニークで、商店街と一体化した広場的空間で行われる活動を紹介しました。

神永 侑子(建築家／AKINAI GARDEN STUDIO 共同代表、他)

横浜最古の寺の参道でもある弘明寺商店街。個性的な店が軒を並べるなかで、路面に面した小商いのシェアショップとして活用されているのが「アキナイガーデン」です。その設計から運営までを手掛ける神永さんは、暮らしに非日常で感動的な体験価値を作り出すことをモットーに活動している建築家。小商い建築と広場との関係はいかに？その可能性を話しました。

小泉瑛一(建築家/ワークショップデザイナー)

横浜のクリエイターが主催し、クリエイターと地域のコミュニケーションを促進するイベント「関内外 OPEN!」。小泉さんはその幹事を務め、駅前の空き地に複数の建築家と協働しパビリオンを作り、広場を生み出しています。このパビリオンの発想は、ヨーロッパで夏場に行われるサマーキャンプのイメージから始まっています。都市の広場にみんなでものづくりをしながら考えられること、その魅力を伝えるプレゼンテーション。

## 《コメンテーター》

野原 卓(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授・都市デザイナー)

富永美保(トミアーキテクチャ 代表)

=====

## セッション 03

横浜に生まれる「広場」について運営者、設計者などさまざまな立場で参画し関わる人たちと共に、広場の在り方、関わり方について議論しました。

## 《プレゼンター》

矢野沙織(横浜 DeNA ベイスターズ ビジネス統括本部 広報・コミュニケーション部 広報グループ)

ベイスターズの本拠地である横浜スタジアム、それが建つ横浜公園、隣接する歴史的建造物を活用した THE BAYS。矢野さんは、これらをフィールドとして、クリエイティブとスポーツを掛け算し、スポーツや野球と社会とのコミュニケーションを促進しています。プロスポーツチームや野球場にとっての広場とはどのようなイメージなのか、日頃の仕事の様子を紹介しました。

大越晴子(象の鼻テラスチーフ)

開港 150 年を記念して整備された「象の鼻パーク」(港湾緑地)とアートスペースとして作られた無料休憩所「象の鼻テラス」。本研究会の会場ともなっている場でアートイベント等のディレクションを行う大越さんのお話です。彼女は、「あったらいいな」と思うアイデアを市井から集め、みんなの夢のつまった『未来の風景』をつくる社会実験「ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT」の担当でもあります。これまで行ってきた実験の数々を話しました。

渡邊莉奈(オンデザイン / FP ヨコハマニシグチ)

横浜西口エリアマネジメントのもとで、まちの未来の実験室「FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチ」の運営パートナーとして活動する渡邊さん。商業施設の一角にある小さな拠点を核に地域の人たちと共に、ときに道路などの公共空間を活用してまちづくりを行っています。まちの課題や魅力の発見をしながら、拠点から町を広場にしていこう取り組みについて報告しました。

熊谷玄(ランドスケープデザイナー／株式会社 スタジオ ゲンクマガイ)

横浜みなとみらい 21 地区の中心にあるグランモール公園、横浜駅西口の JR 横浜タワーの共用部、相鉄線南万騎が原駅前の広場など、横浜の様々な公共空間をデザインしてきた熊谷。今回のまちなか広場研究会は、行政でも大学でもなく現場でデザインやマネジメントをするプレイヤーが主体となっていますが、そのリーダーとして動いています。熊谷の考える公共とは何か、広場とは何か、伝えました。

## 《コメンテーター》

西田司(オンデザイン／東京理科大学准教授)

後藤清子(株式会社ピクニックルーム代表取締役)

総括

小泉雅生 (建築家、小泉アトリエ代表)

閉会挨拶

全国まちなか広場研究会 副会長 北原 啓司(弘前大学 特任教授)

## 【登壇者プロフィール】



### 上野正也

神奈川大学建築学部建築学科まち再生コース准教授

<https://www.arch.kanagawa-u.ac.jp/>

1981 年横浜生まれ。環境デザイン研究所、NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター等を経て 2017 年神奈川大学工学部建築学科特別助教、2022 年より現職。博士(学術)。専門は、まちづくり・創造都市・都市計画。近年は、郊外住宅地における地域愛着に関する調査研究のほか、エリアマネジメント活動支援や民有空地における社会実験など、実践活動を通じた研究活動を展開している(神奈川大学・山家京子教授と協働)。共著に「横浜建築」、分担執筆「アジアのまち再生: 社会遺産を力に」など。



### 岩本唯史

ミズベリングプロジェクトディレクター／(株)水辺総研代表取締役／水辺荘共同発起人／建築設計事務所 RaasDESIGN 主宰

<http://mizubes.com/>

建築家。一級建築士。国交省のミズベリングプロジェクトのディレクターを務めるほか、全国の水辺の魅力を創出する活動を行い、和歌山市、墨田区、鉄道事業者の開発案件の水辺、エリアマネジメント組織などの水辺利活用のコンサルテーションなどを行う。横浜の水辺を使いこなすための会員組織、「水辺荘」の共同設立者。東京建築士会これからの建築士賞受賞(2017)、まちなか広場賞奨励賞(2017)グッドデ

ザイン賞金賞(ミズベリング、2018)、都市景観大賞都市空間部門特別賞(竹芝地区、2022)



### 船本由佳

ライフデザインラボ所長／キャスター／ワークショップデザイナー

<https://minatokurasu.com/>

大阪府出身。阪神・淡路大震災を経験した際、テレビやラジオ以外で容易に情報を集められなかったことからメディアの重要性を感じ、「情報が発信できる仕事がしたい」とメディア関係の会社への就職。倉敷ケーブルテレビ、NHK広島放送局を経てフリーキャスターに転身し、地元大阪でトーク番組を担当。その後、横浜放送局のFMパーソナリティーとしてジャズなどの文化・芸術を発信した。東日本大震災の際、震災と芸術をテーマに取材を行い、2011年度の「全国NHK地域キャスター表彰」を受賞。出産を機にキャスターをいったん離れ、子育てに悩む母親たちとともに「ママ力の会」を立ち上げる。地域からミシンを集め、入園グッズ作りのワークショップを開くなど自主的に活動。あるイベント時に子育て中の母親たちの力だけではなく、様々な世代から助けられた経験により、頼れる人をたくさん持つこと＝「繋がること」だと気づき、そしてそれを発信をする重要さを感じて Kosh33 ライフデザインラボを設立。



### 番場 俊宏

abanba 代表

<https://abanba.co.jp/>

1978 神奈川県生まれ、1997-2000 東海大学工学部建築学科、2000-2002 東海大学工学研究科修士課程(吉松秀樹研究室)、2002-2004C+A(株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ)、2005-2009KOIZUMI

atelier、2010-abanba(株式会社エイバンバ)設立。2013-東海大学非常勤講師。横浜を拠点に活動する設計事務所 abanba の代表。建築、インテリア、家具、都市計画など、さまざまな分野のデザイン、設計やまちづくり活動を行っています。横浜で活躍する他の分野のデザイナーやアーティストとの協働も積極的に取り組み、展覧会の会場構成なども手がけています。



### 三浦 詩乃

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 特任助教  
(専門:都市デザイン、公共空間のデザイン・マネジメント)

[http://udcx.k.u-tokyo.ac.jp/member\\_list/miura/](http://udcx.k.u-tokyo.ac.jp/member_list/miura/)

1987 年生まれ。東京大学大学院 新領域創成科学研究科修了／博士(環境学)。横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 助教を経て、2020 年より現職、2018 年度より国際交通安全学会特別研究員。日本都市計画学会論文奨励賞受賞(2016)。国土交通省 都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会(2019)コア委員を務めるなど、人間中心の街路施策への提言を行う。編著に『ストリートデザイン・マネジメント-公共空間を活用する制度・組織・プロセス』、翻訳書に『Streetfight-Handbook for an Urban Revolution(ジャネット・サディク=カーン、セス・ソロノモウ著)』(いずれも学芸出版社)など。



### 中村 遥

オンデザイン

1993 年生まれ横浜在住歴 27 年。2018 年東京理科大学大学院卒業。オンデザイン入社 5 年目。みなぶん・大通り公園・関内えきちか広場など関内の道路、公園、広場の公共空間の活用社会実験や場づくり



WS などまちに入り込む活動をしながら、小さな什器～土木スケールまで様々なレイヤーを行き来して設計をおこなっている。



### 千代田彩華

オンデザイン／街の未来を描くイラストレーター／PlacemakingJAPAN

1995 年生まれ、神奈川大学工学部建築学科卒業。オンデザインでは建築ができる前からできた後どの様に使われると良いのかを街に飛び込み、街の人を巻き込み育てていくことを主軸に活動中。遊休地の暫定活用「吉日楽校」、みんなでつくる学芸大学高架下プロジェクト、ヒカリエ「なんでも受ケ付ケル」みつけるみなぶん、シブヤホンマチ PLACEMAKING、PLACEGAME 等を担当。人見知りだけれど、人と話すこと、場所を育てていくことが好きでモットーは「自分たちの街を自分たちでつくる、楽しむ！」



### 山崎博史

一般社団法人水辺荘代表理事／合同会社チャートテーブル代表社員

<https://mizube.so/>

1968 年千葉県生まれ。鹿島建設(株)にて 22 年間建築設計業務に従事後、2012 年横浜の水辺愛溢れる仲間と横浜の水辺を楽しむためのサードプレイス「水辺荘」を設立。

主に SUP(Stand up paddleboard)を使った大岡川・みなとみらいインナーハーバーの周遊ツアーとスクールを年間開催。会員向けに主体的かつ日常的に SUPLIFE を楽しむためのコミュニティーも運営し毎朝「まちなか水面広場」を堪能中





## 桂 有生

横浜市 都市デザイン室 都市デザイナー

東京芸術大学建築学科卒業後、安藤忠雄建築研究所、山本理顕設計工場を経て、2007 年、公募による専門職として横浜市都市デザイン室。2014 年東京大学大学院工学系研究科都市持続再生学コース都市デザイン研究室修了。主なプロジェクトに横須賀美術館、象の鼻パーク、OPEN WEDDING!!、新市庁舎デザインコンセプトブック、みっけるみなぶんなど。

写真: Alfie Goodrich



## 伊藤 幹太

YADOKARI 株式会社／エリアイノベーションユニットプロデューサー

<https://yadokari.net/>

1995 年横浜出身。中央大学総合政策学部卒。2019 年より YADOKARI(株) に入社。自社施設「Tinys Yokohama Hinodecho」の運営を経て、行政や自治体、ディベロッパーと共に、様々な企画プロデュース・まちづくり支援を行う。担当に、RIDE ON シバヒロ、芹ヶ谷公園 芸術の杜プロジェクト、未来団地会議 鶴川団地プロジェクト、FOOD ART STATION、Vivid Workers Place 等。休日は有機農家と共に、農と食を起点とした活動を展開。地元横浜で農業に携わる。



## 野原 卓

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授・都市デザイナー

[https://er-web.ynu.ac.jp/html/NOHARA\\_Taku/ja.html](https://er-web.ynu.ac.jp/html/NOHARA_Taku/ja.html)

2000 年東京大学大学院修士課程修了。設計事務所勤務、東京大学助手・助教等を経て現職。横浜市都市美対策審議会委員、横浜市創造界限形成推進委員会委員長などを歴任し、横浜市「みつけるみなぶん」社会実験や「都市デザイン横浜展」など、横浜市での多くの都市デザイン実践・活動に関わる。主な著書に『アーバンデザイン講座』（共著）『まちをひらく技術』（共著）など。



## 富永美保

トミトアーキテクチャ 代表

<https://tomito.jp/>

横浜国立大学大学院 Y-GSA 修了。東京藝術大学美術学科建築科教育研究助手を経て、2014 年にトミトアーキテクチャを設立。大切にしているのは、日常を観察して、さまざまな関係性の編み目のなかで建築を考えること。小さな住宅から公共建築、パブリックスペースまで、土地の物語に編みこまれるような、多様な居場所づくりを行っています。第 1 回 JIA 神奈川デザインアワード優秀賞受賞、SD レビュー2017 入選、第 2 回 Local Republic Award 最優秀賞受賞、2018 年ヴェネチアビエンナーレ出展。



### 酒谷 粹将

関東学院大学准教授／藤原酒谷設計事務所

<https://www.suishosakatani-lab.org/>

1988 年大阪生まれ。2015 年京都大学大学院建築学専攻博士後期課程を修了後、日本学術振興会特別研究員 PD を経て、2019 年関東学院大学建築・環境学部専任講師、2022 年より現職。2020 年より藤原真名美と藤原酒谷設計事務所を共同主宰。博士(工学)。主な専門は設計方法論・設計プロセス論。近年は建築設計における創造的プロセスについての研究や、住民参加ワークショップ等の対話手法を用いた協働的な建築設計の実践的研究、社会実験において制作プロセスへのユーザーの参加を促す家具・什器の設計等に取り組む。2018 年日本建築学会奨励賞。



### 森智佳子

株式会社 スタジオ ゲンクマガイ

慶應義塾大学理工学部卒業。17 年勤務した電機メーカーを早期退職後、ランドスケープデザインを学ぶ。2017 年 STGK 入社。2019 年左近山アトリエ 13110 設立時から企画運営に関わり、写真家菅原康太氏の「左近山とわたし展」をはじめ「いといゆき」展や「押忍！手芸部」展など多くの展覧会の企画を行う。「左近山アトリエ 13110」ではイベント企画・広報などを担当。



### 熊谷 恵美子

長野県安曇野市生まれ。看護師・ケアマネジャー。看護師歴 14 年。大学病院管理職、ケアマネジャーを経験した後、地域コミュニティcafé を運営。「左近山アトリエ 131110」では店長として日々のアトリエを支えている。「左近山アトリエ 131110」「みなまきラボ」では地域コミュニティづくりを担当。



### 神永 侑子

建築家／AKINAI GARDEN STUDIO 共同代表／YADOKARI 株式会社アーキテクチャーデザイン

<https://akinai.life/>

1990 年茨城県生まれ。2012 年愛知工業大学卒業。同年～2020 年株式会社オンデザインパートナーズ勤務。2018 年、横浜弘明寺にシェア店舗アキナイガーデンの開業と共に AKINAI GARDEN STUDIO 設立。暮らしに非日常で感動的な体験価値を作り出すことをモットーに、建築設計をメインとして企画から運営まで一貫した活動に取り組む。主な PJ に、「洞窟のある家」(2021 年)、共創型コリビング「TAMUROBA」(2022 年)等。共同編著書に「小商い建築、まちを動かす」(2022 年)





## 小泉瑛一

建築家/ワークショップデザイナー

<https://aboutyourcity.jp/>

1985 年群馬県生まれ愛知県育ち。2010 年横浜国立大学工学部卒業。2011 年から宮城県石巻市で市民による草の根的まちづくり団体 ISHINOMAKI 2.0 の事務局として活動。グッドデザイン賞復興デザイン賞受賞。

2011～2020 年横浜の設計事務所オンデザインに所属、ユーザー参加型の公共建築設計やまちづくり、社会実験のプロジェクトなどを担当。

2015～2016 年首都大学東京(現東京都立大学)特任助教。2018 年青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム修了。

2020 年、about your city として独立。様々な建築家やデザイナーと協働して建築設計からまちづくり、ワークショップまで幅広く活動する。建築家、アーティスト、写真家と横浜・戸部にシェアスタジオ「野毛山 Kiez」を構える。横浜のクリエイターコミュニティ関内外 OPEN! 幹事。日本都市計画家協会理事。日本建築学会会員。著書)、主な著書に『シティ・カスタマイズ 自分仕様に「まち」を変えよう』(編著: 饗庭伸/ 荒木源希/ 市川竜吾/ 小泉瑛一 晶文社刊行 2022 年)、など



## 西田司

オンデザイン／東京理科大学准教授

<http://www.ondesign.co.jp/>

1976 年生まれ。使い手の創造力を対話型手法で引き上げ、様々なビルディングタイプにおいてオープン

でフラットな設計を実践する設計事務所オンデザイン代表。主な仕事に「ヨコハマアパートメント」「ISHINOMAKI 2.0」「THE BAYS とコミュニティボールパーク化構想」「まちのような国際学生寮」「みつけるみなぶん」など。オンデザインマステ部部長、ソトノバパートナー、グッドデザイン賞審査員。編著書に「建築を、ひらく」「オンデザインの実験」「楽しい公共空間をつくるレシピ」「タクティカル・アーバニズム」「小商い建築、まちを動かす！」



### 後藤清子

株式会社ピクニックルーム代表取締役

<https://picnicroom.co.jp/>

長野県飯田市出身、大阪教育大学大学院修了。シンクタンクや制作会社等を経て、2016 年より子育て支援事業へ参入。2017 年株式会社ピクニックルームを設立、同年企業主導型保育事業「ピクニックナーサリー」、翌年放課後児童向け事業「ピクニックスクール」を開設。2019 年からは地域食堂「さくらホームレストラン」も運営。横浜・関内地域の子どもを中心とした多世代交流を軸に、まちづくりや人材育成についての事業を構築している。



### 矢野沙織

横浜 DeNA ベイスターズ ビジネス統括本部 広報・コミュニケーション部 広報グループ

<https://www.baystars.co.jp/thebays/>

新卒で人材会社に入社し、法人営業を1年半経験した後、2018 年に横浜 DeNA ベイスターズに転職し、事業戦略グループにて新規事業を担当。現在は広報・コミュニケーション部で SNS を中心とする広報の



業務や、ベ이스ターズが運営する会員制シェアオフィス&コワーキングスペース「CREATIVE SPORTS LAB」の運営や、ビジネスマンを対象としたスポーツビジネススクールやトークイベントの企画・運営等の業務をしている。

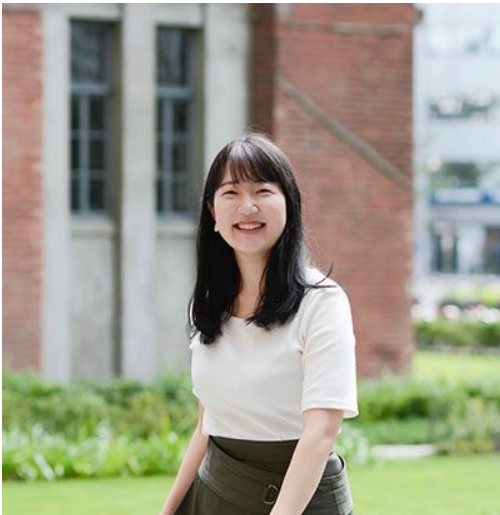


### 大越晴子

象の鼻テラスチーフ

<https://www.zounohana.com/>

武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。建築事務所で設計に携わった後、2012年4月にスパイラルノワコールアートセンター入社。象の鼻テラスチーフ。同館の運営業務全般を担当。公共空間の活用を考えるアートプロジェクト「フューチャースケープ・プロジェクト」、その他イベント・ワークショップの企画・制作・広報・運営などの業務にあたる。



### 渡邊莉奈

オンデザイン / FP ヨコハマニシグチ

1996年愛知県生まれ。2019年愛知淑徳大学卒業。同年、株式会社オンデザインパートナーズに入社。建築設計とまちづくりをフラットに捉え、ワークショップなどを通して使い手の声を拾い上げながら、多様な人々が空間を共有するための場づくりをおこなっている。横浜西口の地域拠点「FUTURE PUB' LIC ヨコハマニシグチ」運営パートナー、「東京ビエンナーレ」会場計画、コーポラティブハウス「駒沢ケヤキテラス」などを担当。



## 熊谷玄

ランドスケープデザイナー／株式会社 スタジオ ゲンクマガイ(代表)

<https://stgk.jp/JP/>

1973 年横浜生まれ。現代美術作家 Studio 崔在銀のアシスタント、earthscape inc.を経て、2009 年 3 月より STGK Inc. (株式会社スタジオゲンクマガイ) 代表。ランドスケープデザインを中心に、人の暮らす風景のデザインを行なっている。

愛知県立芸術大学(2011 年～), 東京電機大学(2017 年～), 千葉大学(2018 年～)東京大学まちづくり大学院(2021 年～)非常勤講師。一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟理事。一般社団法人残すに値する未来理事。共著に「図解パブリックスペースのつくりかた」(学芸出版)

## 第 9 回全国まちなか広場研究会 in 横浜 2 日目(横浜の広場をめぐるツアーとストリートパーティー)

こちらは「全国まちなか広場研究会 in 横浜」の翌日に開催された、エクスカッション・ツアー、ストリートイベントです。エクスカッション・ツアーは、横浜の広場の歴史、現在がみられる都市部、郊外部の事例をその設計に携わった専門家の案内により巡ります。また、ストリートイベントは、関内桜通りの道路とその隣接する建物 1 階を活用した催しとして、実際に体験できる仮設のストリートファニチャーなどを配置し、広場的空間をお楽しみいただきました。

### 1. 横浜みなとみらい 21 都市軸&横浜市役所広場ツアー

新たなビルが次々と建設されているみなとみらい地区。その足元にはたくさんの広場空間が生まれています。その広場を巡りながらみなとみらいの今を知るツアーを実施しました。

日時:2022 年 11 月 26 日(土)10:00~12:00

料金:1,000 円

参加人数:5 名

集合場所:みなとみらい線「新高島駅」改札前ツアーコース:みなとみらい地区のキング軸、グランモール軸、クイーン軸を形成する広場を練り歩き(主な行き先:横浜グランゲート、グランモール公園、ドックヤードガーデン、日本丸メモリアルパーク)、横浜市役所まで。

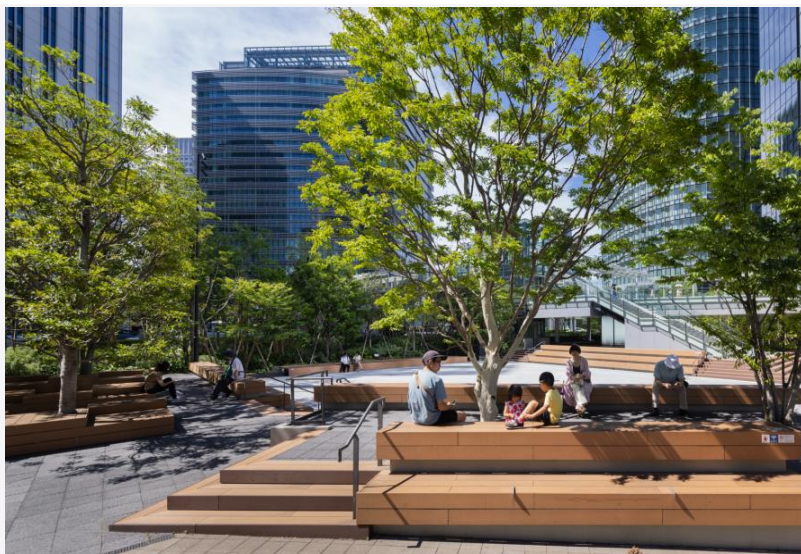
解散場所:関内桜通り

**案内人: 鈴木裕治(オンサイト計画設計事務所パートナー)**

1968 年鎌倉生まれ。Hideo Sasaki を顧問にした sasaki environment design office.

(S.E.D.O.)に 1992 年入社。1998 年に「オンサイト計画設計事務所」を他 3 名と共同設立。以来、キャンパス、オフィス、リゾートホテル、美術館、庁舎など、数々のランドスケープデザインを手がけ、広場を中心に据えた人の暮らす風景のデザインとパブリックとの関係を模索している。首都大学東京、明治大学兼任講師を経て現在 東京電機大学、千葉大学非常勤講師。一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟(JLAU)常任理事。

代表作に横浜市役所／横浜グランゲート(キング軸)/横浜ポートサイド公園/象の鼻パーク/柏の葉キャンパスシティ／東京電機大学千住キャンパス／あべのハルカス／スイデンテラス／富士山世界遺産センター／ハルニレテラス／OMO7 大阪／星のや(全施設)などがある。



## 2. 都市デザインのひろばのはしごツアー

横浜の中心で、横浜市役所、関内北口広場、みっけるみなぶんなど都市デザイン的な広場をはしごするツアーを開催しました。

日時:2022 年 11 月 26 日(土)10:00～12:00

料金:1,000 円

参加人数:11 名

集合場所:みなとみらい線「馬車道駅」改札前

ツアーコース:横浜市役所アトリウム→北仲北歴史広場→新港 8 街区→象の鼻パーク&テラス→日本大通り→みっけるみなぶん 2→くすのき広場跡地→関内駅北口広場

解散場所:関内桜通り

**案内人: 桂 有生(横浜市 都市デザイン室 都市デザイナー)**

東京芸術大学建築学科卒業後、安藤忠雄建築研究所、山本理顕設計工場を経て、2007 年、公募による専門職として横浜市都市デザイン室。2014 年東京大学大学院工学系研究科都市持続再生学コース都市デザイン研究室修了。主なプロジェクトに横須賀美術館、象の鼻パーク、OPEN WEDDING!!、新市庁舎デザインコンセプトブック、みっけるみなぶんなど。





### 3. 横浜旭区の郊外団地・駅前広場ツアー

今、郊外でどんな広場が生まれ使われているのか？相鉄線「南万騎が原駅」や 4800 戸の巨大団地左近山を回るツアーを実施しました。

日時:2022 年 11 月 26 日(土)10:00～15:00(予定)

料金:3,000 円

募集人数:5 名

集合場所:相鉄線二俣川駅改札前

ツアーコース:(車を用意し移動します)みなまきみんなの広場・みなまきラボ・左近山アトリエなどを予定

解散場所:関内桜通り



上記ツアー主催:全国まちなか広場研究会 in 横浜事務局

### 4. さくら通り OPEN!!

関内さくら通りは、セントラル関内に位置し、関内外の中心部として、以前から様々なかたちで通りが開かれています。横浜都心部の市民～実践者～協力機関のあり方を模索できる中心地として、ヒロバニスト

が所有するストリートツールを持ち寄って、道路上に展開します。さくら通りが広場となるストリートパーティを開催しました。

日時:2022 年 11 月 26 日(土)12:00～16:00

会場:関内桜通り(泰生ビル前、横浜市中区相生町 3-61)

主催:オンデザイン・ピクニックルーム・横浜ヒロバニスト一同

協力:関内桜通り振興会

